

事業所名: グループホーム ふるさと

作成日: 平成 29 年 3 月 25 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ご利用者の”有する能力”を把握し、グループホームの生活の中で、維持・向上に繋がるような支援を行っていききたい。	ご利用者が、自分の”有する能力”を活かしながらいきいきと生活し、その能力を維持・向上させる事ができる。	1)アセスメントシートに、ご利用者の有する能力「できる能力」「できそうな能力」「認知能力」「リスク」等を記入する欄を追加する。 2)各ご利用者の”有する能力”に合わせ、生活の中で実施できるリハビリを、ケアプランの中に1項目は入れ、実施する。	12 ヶ月
2	33	ご利用者の病変の緊急時対応方法を全職員が習得し、有事に適切な対応が行えるように備えたい。	全職員が、ご利用者の病変の緊急時対応が適切に行えるようになり、異常の早期発見に繋げる事ができる。	1) 病歴も含めたご利用者の個別マニュアルを作成する。 2) 担当看護師と定期的にミーティングやミニ勉強会を行い、早期発見や緊急時に必要な知識や対応方法などの指導を受ける。	12 ヶ月
3	36	職員が認知症を理解し、お年寄りを尊敬する気持ちを大切にしながら、ご利用者への介護の質を高めていきたい。	ご利用者の、その人らしい生活を守りながら、職員同士がお互いに介護の質を高めていく事ができる。	1)全職員に対し、1ヶ月に1度『虐待の芽チェックリスト』を実施する。 2)ご利用者やご家族からの要望や苦情は丁寧に聞き取り、その都度記録に残す。 3)毎月の会議などで情報を共有し、認知症ケアのあり方の改善に努める。	12 ヶ月
4	11	職員が、管理者やそれぞれの立場の業務内容を確認・共有して、協力し合いながら業務を行っていききたい。	職員、管理者の業務を”見える化”する事で、それぞれの立場の業務内容を理解し、チームワーク良く業務を行う事ができる。	1)各業務、管理者業務が一覧できるスケジュール表を作成し、各棟に掲示する。 2)管理者業務や職員各担当業務の手順書を作成・整備する。	12 ヶ月
5	43	ご利用者の排泄能力を見極め、必要以上のオムツやパッド使用を予防しながら、可能な方は布パンツへの復帰を実現させたい。	ご利用者ごとの排泄能力に合わせた適切な対応ができ、可能な方は布パンツへ復帰できる。	1)排泄に関するアセスメントを行う。 2)排泄リズムや汚染状況に応じたパッド等の使用を見直す。 3)排泄に関して”有する能力”を活かしながら対応し、汚染が少ないご利用者は、布パンツ使用への復帰を目指す。	12 ヶ月